

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			指導訓練室以外にも一人でゆっくりと過ごせる部屋もあり、一人の空間も作っている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			常時、児童指導員 4 名を含め 7 名適切に配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			室内への入口 3 か所のうち、1 か所はスロープにしている。
業務改善	4	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			月に一回の事業所会議で振り返り等、職員同士で共有している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			実施している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			HP で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価は実施できていない。隔月に 1 回、外部作業療法士のスーパービジョンを受け、事業内容や個別事例について助言をもらっている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			月に 1 回ずつ法人職員研修、事業所内研修を行っている他、事例検討を行っている。外部研修もできるだけ参加している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			年に 2 回作成。保護者から聞き取り、子どもの状態の観察を通して職員間で話し合いながら作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		本人、家族の思いに寄り添うために、個別の支援計画やサポートカードを充実させ活用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			会議で振り返りを行い、次回の活動にかせるよう取り組んでいる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			活動予定表を用いて月ごとの活動内容を考えている。季節や子どものニーズによって工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長期休暇の場合、調理実習、買い物、公共施設の利用等、地域に出るメニューを計画し個に応じた目標を設定している。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			1 対 1 での関わり、少人数での活動、全体での活動における各目標を子どもの状況によって計画作成している。	

15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			必要時にはミーティングを活用し共有している。支援開始前には確認を含め共有できるよう努力している。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			その日の出勤者以外にも、ミーティングを活用して全員で共有できるよう取り組んでいる。また記録をつけるとともに情報共有を図っている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			送迎終了後に記入し、会議等で検証、改善につなげている。

18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			年に2回振り返りとモニタリングを行い、計画の見直しをしている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			様々な体験ができるよう、自立支援や制作、余暇等の活動プログラムを企画して支援している。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			必ず責任者が参加している。
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			送迎時に行っているが、難しい場合は連絡ノートや電話等で情報共有を行っている。相談事業所とも連携し、相談事業所からも学校と連携が出来るようにしている。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		医療的ケアの必要な子どもの利用がないが、必要に応じて行う。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		当該事業所は中高生の対象のため、関係事業所及び学校と連携を行っている。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	○			関係事業所へ移行する場合は必ず支援内容等の情報を提供している。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			外部 OT から療育などに関するスーパービジョンを受けている。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	中高生対象の事業所であることもあり、特に実施していない。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			呉市、東広島市の自立支援協議会に参加している。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			日々の送迎時、また大きな課題があった時は所内ケース会議や関係機関などとケア会議を行っている。

関係機関や保護者との連携

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	保護者同士で話ができるよう家族行事を行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に重要事項説明書等で説明し支援の内容について変更があれば送迎時に伝えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			当該事業所だけで対応できないケースは相談事業所等とも連携しケア会議を実施している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			家族行事を通して、保護者同士が話をしたり、悩みを出したりできる場を提供している。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情報告として、職員間で共有し、改善策を考え、適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			法人会報を毎月お渡ししている。事業所の行事案内や様子については書面でお知らせしている。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			注意している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			ろう者の保護者に対し、手話や筆談で対応している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		昨年度は参加人数は少なかったが、地域住民も招き、もちつきを開催。今年度も開催予定。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		緊急時対応マニュアルは作成し周知している。防犯マニュアル、感染症対応マニュアルは保護者に周知していない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年に2回、避難・消火訓練を行っている。7月豪雨の経験を基に、備蓄品等について現在準備中。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			年に1回以上は所内会議で行っている。毎月の業務点検でリスクについて確認している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか			○	身体拘束を行うケースはない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			アセスメント表、サポートカードに記載し、共有している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			法人内メーリングで共有し、会議で再度対策等共有しファイリングしている。